

流域視座で、文化・自然・社会を見つめ直す： 一般社団法人パースペクティブ、体制変更および新コーポレートサイト公開のお知らせ

2025 年 11 月 11 日

一般社団法人パースペクティブ（本社：京都市右京区京北、代表理事：高室幸子）は、代表理事体制の変更に伴い、法人の新たな方向性を体現するコーポレートサイト

(<https://www.prspectiv.co/jp/top>) を公開しました。

共同代表を務めていた堤卓也が今年度、株式会社堤浅吉漆店の代表取締役役に就任したことを受けて、2025 年 10 月をもってパースペクティブ代表理事を満期退任。これに伴い、創業以来の共同代表であり、企業理念の構築やプログラム・サービス設計と研究開発を担ってきた高室幸子が、引き続き代表理事として組織を牽引してまいります。

新サイト公開の目的

創業から 6 年を経て、パースペクティブは次のフェーズへと歩みを進めます。これまで、“工藝の森”や“ファブビレッジ京北”などの拠点が象徴してきた活動は、工藝や森づくりを通じて人と自然の関係を見つめ直す実践でした。一方で、そうした拠点の印象の背後にある、組織としての思想や高室の研究・実践の意図はこれまで十分に伝わってこなかった部分もあります。

今回の体制変更を機に、パースペクティブは改めてその理念を言葉にし、「見ることから始める」という原点に立ち返ります。文化と自然とものづくりの関係性をもう一度見つめ直し、社会のなかに新しい循環のあり方を育てていく——この再定義を体現するものとして、コーポレートサイトを全面的に刷新しました。サイトでは、これまで個別に展開してきた森・工房・レジデンスの活動を統合し、研究・教育・創造の 3 つの領域を横断する当法人の全体像を発信しています。その中心をなすのが、自然と文化の関係をフィールドベースの学びの形にした「流域文化プログラム」です。

代表的なプログラム：流域文化プログラム

（正式名称：歴史と風土が培った命のつながりに学ぶ、流域文化プログラム）

京都を舞台に「水」を補助線として、街の暮らしや文化を支えてきた環境との関係を見つめ直す、フィールドベースの学びのプログラムです。

都市と自然、文化と産業、思想と実践の関係を多層的に捉えながら、企業・行政・教育機関など、多様な組織における次世代リーダーの育成を目指して展開しています。

特徴

1. 文化の流域をめぐる体験と思索

京都市中心部から、平安京を支えた山間の京北、そして茶の文化を育んだ宇治まで。都市と自然を結ぶ“流域”をダイナミックにたどりながら、文化と生態の循環を、身体を通して体感します。

2. 学際的な視座の獲得

工芸・造園・茶道・芸能・宗教など多様なフィールドで京都を代表する実践者との対話を通じ、哲学・経済・生態学などの分野を横断して、社会を新たに見立てる視点を育みます。

3. 身体を通じた理解を促す独自のファシリテーション

エスノグラフィーやインタープリテーションの手法を取り入れ、観察・記録・対話を通して“気づき”を育む設計がされています。観光でも研修でもない、「見方を育てる」プログラムです。

プログラムの流れ

Day	経験すること	問い	目指す自己変容
Day 1 観ることの前に、耳をすます	オリエンテーションと坐禅。流域という自然システムを「補助線」に世界を見直し、さらにロゴスとレンマ（論理と感覚）の両面から、ものの見方を再構築する。能を通じて“観る”以前の感受を体験する。	- 私たちは、何をもって「世界を見ている」のか？ - 坐る／聴くという行為は、どのように思考の在り方を変えるのか？ - 時間を“感じる”とはどういうことか？	思考の枠組みから一歩離れ、感覚を通じて世界を受け取る力を取り戻す。静寂の中で、自分と世界の境界がゆるやかに溶け始める。
Day 2 素材が導く、知と技の系譜	老舗菓子司・漆精製業・職人の現場を訪問。素材・技術・文化の連関を観察し、人の手と自然の営みの関係をたどる。	- 各訪問先で最も印象に残った出来事は何か？それらはどんな関係で結ばれているか？ - 「京都の文化を繋いできた心の中の価値」とは何か？	職人や素材との対話を通じて、“生産”を人と自然の協働として捉え直す。観察者から“つくる者”のまなざしへと移行する。
Day 3 風土に身を置き、いのちの連鎖を観る	京北の里山を訪れ、林業・農作業・生活文化などを体験。地形・水・植物が支え合う生態の中で、地域の人々の暮らしを観察する。	- 具体的な行為や景観の中に、どのような「いのちのつながり」が見えるか？ - その背景にある価値観は何か？ - それは「経済合理性」とどう関わっているか？	経済・文化・自然の関係を分断せず、相互に生かし合う構造を感得する。自然を“資源”ではなく、“呼吸を共にする存在”として感じる。
Day 4 流れが刻む都市の記憶をたどる	京都市街のウォーキングツアー。「水の流れ」を手がかりに、都市の地下・産業・信仰・暮らしの層を読み解く。	- 「茶文化」を例に、関係するアクターネットワークを俯瞰して描くときどう見えるか？ - 都市と自然は、どのように共存してきたか？	自然と文明を切り離す見方を越え、都市を“流域の一部”として感じ取る。空間・時間・人の営みが重層的につながる感覚が生まれる。
Day 5 茶を通じて、分かれたいのないものへ還る	茶道の実践と講義を通じて、道具・空間・自然・行為が一体化する瞬間を体験。プログラム全体を通じての問いを再考する。	- 茶の形式や記号の中に表現される精神性は、どのように人・道具・自然を一体化させているか？ - 自然や文化を“育む経済”とは何か？ - 初日に書いた「いま気になっていること」はどう変化したか？	感覚・思考・存在の境界が融け合い、“世界とともに生きる”という原点に立ち返る。自分の中に芽生えた問いを抱えたまま、次の実践へ歩み出す。

今後の開催予定

プログラムは現在、下記の開催日程で参加者の募集を開始しました。

- 第1回：2026年4月24日（木）～27日（月）グローバルニーズに対応した英語開催
- 第2回：2026年5月16日（土）～19日（火）国内の次世代リーダー向け日本語開催

詳細・お申し込みはこちらから：<https://www.prspectiv.co/jp/watershed-program>

代表コメント

「創業より共に歩んだ堤の退任を経て、パースペクティブは新たなフェーズに入ります。私たちの活動は、森や工房という“場所”をつくることにとどまりません。むしろ、自然・文化・都市の間に流れる見えない関係性を捉え直し、学びと実践を通して“新しい生態系のあり方”を社会の中に育てていく、その試みを私が引き続き牽引してまいります。」

— 高室幸子（一般社団法人パースペクティブ 代表理事）

一般社団法人パースペクティブについて

工芸が培ってきた「人と自然の間の持続的な呼応」を手がかりに、地域の自然・文化・ものづくりを流域視点で捉える教育・レジデンスプログラムを展開。平安京の木材供給地であった京北を拠点に、「工芸の森」「ファブビレッジ京北」「レジデンスFuu/風」など、複数の拠点を通じて、持続的な社会づくりに向けた実践と研究を行っています。

公式サイト：<https://www.prspectiv.co/jp/top>

所在地：京都市右京区京北辻町藤野ノ元 48

お問い合わせ：まずはメールにてお問い合わせください。 info@prspectiv.co
